

星空に想いを…星座のお話

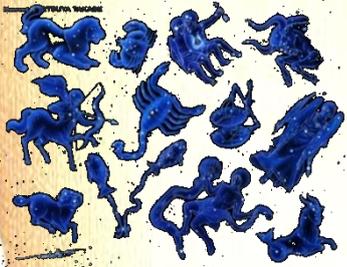
◎そもそも星座とは？

恒星（自ら光る太陽のような星）をギリシャ神話中の人物や動物・器具などに見立てて適当に結び付け、天球を区分したものです。古代ギリシャでは48星座でしたが、後に南天の星座が追加されました。現在は全天で黄道の12星座北天28星座、南天48星座の合計88星座に区分しています。



◎星座のはじまり

夜空には全部で88の星座が輝いています。これは国際天文学連合が1930年に定めたもので、それ以前は民族や国々によって、星座の呼び方や形が異なっていました。天空の星をどのように結び合わせるのかは、見る人の自由ですから自然なことです。民族や時代によって物事の見方が違うように、星座の形や数も場所によって違っていました。



ちなみにインドの星座ナクシャトラとは、インド占星術ならびに天文学で使われる27もしくは28の星宿である。インド神話においてはダクシャの娘とされ、月の神ソーマの妃とされる。これが中国に渡り27星宿となり、さらに宿曜道と名を転じたのです。では、現在の星座の起源はいったいどこで生まれたものなのでしょうか？

現在の星座のもとをつくったのは、メソポタミア地方（現在のイラク付近）に住んでいた羊飼いたちです。彼らは、羊たちが眠っている夜、空を仰ぎながら星と星をつないで、さまざまな絵を夜空に想像していたのです。これが星座のはじまりで、この星座がギリシャに伝わったとき、ギリシャ神話（ギリシャ神話）と結び付いたと言われています。ギリシャ神話は詩人ホメロス



プトレマイオス

などによる叙事詩によって起こりました。その後、ギリシャの吟遊詩人が星座神話を多く取り扱い、ギリシャ神話と星座の結びつきが強くなっていきます。それと共に星座の数も整理されていきました。これらの星座は、ギリシャの学者プトレマイオスの「アルmageスト」という著作の中で集大成され、ギリシャ神話にもとづく48の星座にまとめられました。これをプトレマイオスの48星座とよんでいます。

15世紀に入るとヨーロッパは大航海時代に突入します。大型船を利用して遠洋航海を行い遠方の国々と貿易を行うようになりました。そうなるまで知られていなかった低緯度地域の星や、南半球の星まで航海士は目にするようになります。その星座をまとめたのがラカーユです。ラカーユは18世紀のフランスの天文学者の一人で、南半球の星座を設定したことで有名です。けんびきょう座やコンパス座と言った現在も使われている南天の星座をまとめ上げました。アルゴ座という巨大な星座を4つに分割したのもこのラカーユでした。



第一次世界大戦後、混乱していた星座と星座境界線を国際天文学連合がまとめました。現在使われている88星座は、この時に決まったのです。こうして現在の星座が完成したのだそうです！さて、あなたは何個ぐらいの星座を覚えたかな？